

(1) ゼミの目的

佐野ゼミは、「社会言語学」という枠組みを通して、ことばに関するあらゆる疑問を考えていくことを目的としています。具体的な目標は「いい卒業論文を書く」、つまり、日頃使っている「ことば」に対して適切な問題意識をもち、その問題意識を（ことばを使って）組み立てて表現して記述すること、になります。テーマはことばに関することであれば何でもけっこうですし、そのアプローチもさまざまです。ただし、「語学」のゼミではありませんので「フランス語／英語／日本語がうまくなりたい」といった希望は叶えられませんのであらかじめご了承ください。

ゼミの傾向としては「放任&厳しめ」です。2、3年生のゼミはひたすら教科書を読むだけですので、自分の関心については自分で文献を探して読んでいってください（ちなみに教科書を読むのはかなり大変です）。また、卒論テーマは自分の好きなものでかまわないかわりに自分で分析枠組みをきちんと立てる必要があります。卒論で手を抜くことは許しておりませんので、そのつもりでよろしくお願いします。

(2) 具体的なスケジュール・行事

- ・夏休み中（8月上旬）に隠岐の海士町にて聞き書き合宿
- ・夏休み終わりまたは後期始まってすぐに4年生卒論構想赤入れ大会
- ・10月頃 「ゼミ交流戦」
- ・2年後期（木曜3限） 社会言語学の教科書（英語）を一冊選んで講読。
- ・3年前期（木曜3～4限） 教科書講読の続き
- ・3年後期（木曜4限） 卒論のテーマにそって各自一冊ずつ文献を選んで発表
- ・4年（時間は比較的自由、卒論構想発表・赤入れ大会などは木曜3～5限）
前期第1回は卒論構想発表（3年生も参加）。
夏休み中に卒論を30枚程度までまとめてそれについて2,3年も含め全員で赤入れ
（あらかじめ30枚をゼミ生全員に配布、全員読んできて、わかりにくかったところや誤字脱字などをチェックしていく）
- ・12月半ばに完成卒業論文を一度提出、年末最後に個人面談で赤入れ、年明けに事務に提出
- ・1月末～2月始めに卒論発表会

今までの卒業論文のテーマ（*印は殿堂入り秀作論文）

- 2002年度 『ほめることはなぜ難しいのか -聞き手の返答を中心に-』
『英語の侵略に対するウェールズ語の抵抗』
* 『鈴木宗男議員の証人喚問について -証人のいない証人喚問-』
『イッマル教育における国語教科書のかんじ併用』
『二人称の世界』
- 2003年度 『アイルランド語の現状と将来—国家が保護する少数言語の行方—』
* 『岐路に立つ聾学校-ろう者カテゴリーから見える聾教育の諸問題-』
* 『外国人就労者の受け入れに伴う言語的問題-大垣市のブラジル人の教育問題を中心に-』
『外来語に関する研究』
『新聞におけるジェンダー表現の変化』
- 2004年度 * 『地域の多文化・多言語社会化—愛知県岡崎市の調査より-』
- 2005年度 『日本人と英語』
『<敬意>からみた敬語—現代敬語は乱れている？それとも変化？—』
『日本語の表記について』
- 2006年度 * 『移り変わる方言意識—東海地方の大学生の意識調査を中心に-』
- 2007年度 『教科書にみる国語科の変遷と国語政策』
* 『女ことばの移り変わりと今～メディアから見る現代の女ことば～』
『英語観についての一考察』
『出稼ぎ労働者の子どもの教育—バイリンガル教育の理論と日本語教室での参与観察から—』
- 2008年度 * 『キャラクター化するポライトネス・ストラテジー—オネエ言葉の考察から—』
『現代日本語敬語のすがた ～敬語使用のユーティリティを探る～』
『篠島方言調査 -篠島出身の祖母に対する聞き取りから-』
『<ダイバーシティ>に見る外来語カタカナ表記戦略と性の表象の偏り』
『店員対客における「ほめ」の返答の難しさ』
- 2009年度 『政府の言語普及政策 -対外日本語教育の歴史と役割』
* 『「放課」という語の使用状況と社会的要因について』
『商業分野におけるカタカナ外来語使用の実態』
- 2010年度 『名古屋市における方言活用の実践に対する評価』
* 『携帯メールの会話分析 -顔文字・絵文字が表すポライトネス・ストラテジー-』
『商品としての言語～日本における韓国語学習～』
- 2011年度 『テレビ討論番組における発話の重なるの考察—視聴者の目に映る討論者の“役割”-』
『大学のゼミ中における会話の分析 -あいづちに注目して-』
『マンガ『君に届け』における終助詞使用に関する考察—「<女性性>の強い終助詞」を中心に-』
『東海における地方共通語が導く気づかない方言』
* 『エルサルバドルにおけるナワト語の復興活動の考察
～イサルコにおけるナワト語の教育プログラムを中心に～』
(『グローバル社会を歩く③ たちあがる言語・ナワト語』(新泉社)として刊行)
- 2012年度 『日本における英語教育—早期英語教育を生徒や教師はどう捉えているのか—』
* 『「かわいい」使用の変化—ファッション誌から見る使用者とその対象—』
『人はなぜ移動するのか -韓国人・中国人留学生の目にみえるせまく・小さな世界の姿—』
『台湾における日本語のあり方についての一考察—台中でのフィールドワークを中心に—』
* 『呼称 mate (mΛ i t) の使用されている実態と話者の意識に関する考察
—ブリスベンにおける調査を中心に—』
『カタカナと alphabetの文字表記による効果—『non-no』の表紙から—』
『楽しまれる悪口の使い方—相互行為における第三者の役割に着目して—』